

今月の一言

キーワード：七転八倒

古い昔の中国の話です。

だいにいんがこう
大學院可弘禪師という人に、ある修行僧が聞きました。

「この道さえ歩いてゆけば、絶対にまちがいのない、真実の道（正真の一路）とはどういうものですか？」と。

だいにいんがこう
大學院可弘禪師が答えました。

「七転八倒」（七回転んで八回倒れる）『七転び八起き』じゃありません。

転びっぱなし、倒れっぱなし。

つまり、失敗の連続。それが真実の道だ！というのです。

人間は努力をしているかぎり、これでいい、これで満点、なんてことはありません。いつでも未完成、不完全です。ただここで、大事なことは、転びも倒れも、具体的に動かなければ起きない現象だということです。

常に具体的に動くことが前提。

2003年8月25日

さいのう とおる

追伸：事業計画書の再度確認で、PDCAの実施。